

はじめに

視覚障害のある児童・生徒に対する理科の指導内容は基本的には一般の学校と同じです。しかし、一般の学校の指導は視覚中心であり、同じ指導方法を視覚障害のある児童・生徒に当てはめることはできません。一方で、理科が対象にする自然界の情報は多様であり、たとえ視覚が使えなくても、様々な感覚を活用して情報を得ることができます。そこで、視覚障害のある児童・生徒に対する理科教育では、指導内容の本質を踏まえた題材の精選、障害の特性を考慮した実験・観察の方法、系統的な体験の積み上げ等に特に配慮する必要があります。これらの配慮によって、視覚障害のある児童・生徒が主体的に実験・観察に参加し、自然の仕組みを学ぶことができます。

我が国の視覚障害のある児童・生徒に対する理科教育は 1950 年代から急速に進歩を遂げ、1970 年代には視覚障害のある児童・生徒にも実験・観察を中心とした理科の授業を行うことが基本の考えになっていました。しかし、全国の盲学校の中には、視覚障害のある児童・生徒には実験や観察は無理と決めて、いわゆる「お話し理科」とどまっている学校も多くありました。そこで、この状況を打開するために、視覚障害理科教育に関わる教員や研究者が継続的に参加して情報交換ができる研究会を設立しようという気運が高まり、1980 年 8 月に横浜で開催された全日本盲学校教育研究大会（全日盲研）理科分科会において、研究会の設立が提案され、承認されました。これを受けて、1980 年 11 月 21 日に筑波大学附属盲学校で研究会設立のための会議が開かれました。

この会議では、研究会の名称を「日本視覚障害理科教育研究会」とすること、その英語名を“Japanese Association of Science Education for the Blind”とすること、会の通称を英語名の頭文字から“JASEB”（ジャセブ）とすることが決まり、この日を研究会発足の日と決めました。また、活動内容として、毎年 1 回の研究大会を開催し、会報『JASEB NEWS LETTER』を発行することを決めました。その後、全国に呼びかけ、1981 年 8 月に第 1 回研究大会が東京で開催され、以後、今日まで毎年 1 回の研究大会が開催されています。

会報『JASEB NEWS LETTER』第 1 号は、1982 年 6 月に発刊され、その後も、年 1 回発行されています。本会発足以来 36 年が経過し、本年 7 月に会報 35 号が発行されました。

本研究会の会報は本来は会員の研究交流のためのものですが、会員外の方を含めて、視覚障害のある児童・生徒の理科教育に携わる人や、五感を活用する理科教育に関心をもつ人が、広く知識や経験を共有できるようにするため、2007 年（平成 19 年）3 月に、会報『JASEB NEWS LETTER』のバックナンバーを PDF 形式の電子データとして、筑波大学附属視覚特別支援学校のホームページから閲覧できるようにしました。そして、この度、念願かなって本研究会のホームページが開設されましたので、現時点までに発行された会報の PDF データを本研究会のホームページに掲載することとなりました。今後は、会報発行の都度、内容を更新いたします。また、現在は日本語ですが、将来的には主要な内容については英語での検索もできるように発展させたいと考えています。

2017 年（平成 29 年）5 月

日本視覚障害理科教育研究会 会長 鳥山 由子